

セルフメディケーション税制の 見直しについて

令和3年3月10日

厚生労働省医政局経済課

第1回検討会のまとめ（総論）

前回の論点

総論1 セルフメディケーションと税制の関係性

- セルフメディケーションの意義をどのように考えるか
- 税制によりOTC医薬品の使用促進を図るべき領域（薬効）をどのように考えるか
 - ⇒ 医療費の適正化効果以外に必要な視点はないか

総論2 セルフメディケーション税制の効果

- 税制による医療費適正化効果の検証を行うための指標は、どのようなものが適切と考えるか
- 対象医薬品の範囲の検討に当たっては、医療費適正化効果の検証可能性も考慮すべきではないか

各委員から頂いた御意見のまとめ（案）

○日頃からの予防・健康づくり（セルフケア）に取り組む中で、症状に応じて自分で市販薬で適切に対処（セルフメディケーション）することにより、限りある医療資源を有効活用しながら、健康の維持増進につなげることが可能となる。

○セルフメディケーションの適切な実施により、医療費の適正化にも資することが期待できるが、その推進に当たっては、安全性の観点も重要。

税制により使用促進を図るべき領域は、消費者が自覚症状に応じて、容易かつ適切にOTC医薬品を選択・使用することができる領域であるべき。

○医療費適正化の観点からは、医療費適正化効果の期待可能性の高低や、効果の可視化が可能かどうかを踏まえて判断することが適当。

第1回検討会のまとめ（各論1）

前回の論点

各論1 対象から除外するもの・必要な経過措置期間

○既に税制の対象になっているスイッチOTCのうち、どのような領域（薬効）のものが医療費適正化の効果が低いと考えられるか

○必要な経過措置の期間をどのように考えるか

各委員から頂いた御意見のまとめ（案）

○議論の前提は、症状に応じた自己対処というセルフメディケーションの趣旨や、その結果としての医療費の適正化効果の期待可能性から見て、相対的に効果が低いと考えられるものを決めていくということ。

○スイッチOTCであっても、安全性の観点から、症状に応じた自己対処のリスクが高いと考えられるものについては、税制の対象としては慎重に取り扱うべきではないか。

○また、

・症状を抑える治療代替的な目的以外の目的（栄養補給等）で購入されうるものや、類似の効能を謳う医薬部外品や健康食品などにも代替されうるもの

・予防的効果を目的としており、当該薬剤のみでは、特定の保険給付を代替しないとされるもの

については、医療費適正化効果の期待可能性が相対的に低く、当該薬剤の使用による医療費適正化効果の可視化も困難ではないか。

○一方で、税制対象から除外することでセルフメディケーションの推進に逆行しないようにすることも重要。

○除外するものの経過措置は、標準的な品質保証期間や卸の在庫期間を考慮して決定すべき。

第1回検討会のまとめ（各論2）

前回の論点

各論2 対象に加えるもの

- スイッチOTC以外のOTCで、税制により使用促進を図るべき領域（薬効）をどのように考えるか
- どのような領域（薬効）であれば、税制対象範囲の拡大による医療費適正化の効果が著しく高いと考えられるか

各委員から頂いた御意見のまとめ（案）

- 議論の前提は、3薬効程度という限定は、医療費削減効果の高いと見込まれるものに限定し、効果をしっかりと出していくことを目的とするもの。
- 税制により国民の行動を促すためには、消費者に対するわかりやすさの観点が非常に重要。複数の薬効が類似の症状に対応しているものや、同一の成分が複数の薬効分類にまたがることもあるため、症状単位で考えていくことが適当ではないか。
- 拡充対象を考える際には、安全性の観点を重視すべき。重症化や急変の可能性が高いもの、症状の中に様々な疾患が隠れているようなものは慎重に扱うべき。
- 拡充するものについては、医療費適正化効果として計量可能な数字がある程度期待できるものを優先的に選択していくことが重要。そうした観点からは、有訴者数の多さを第一に考え、潜在的な医療費の適正化額の大きさ等も考慮して決定してはどうか。

対象医薬品の範囲について

対象から除外するものについて（論点）

○既に税制の対象になっているスイッチOTCのうち、①安全性の観点から慎重に取り扱うべきもの、②医療費適正化効果が低いと考えられるものとしては、下表の4成分が挙げられるが、どのように考えるか。

○一方で、除外することによりセルフメディケーションの推進に逆行しないようにすることも重要であり、例えば、多くの国民が訴える症状に対する効能・効果を有するスイッチOTC成分については、引き続き医療費適正化効果の検証を行うことも含め、取扱いを慎重に検討する必要があるのではないか。

薬効群	成分名	効能・効果	考え方
強心薬	ユビデカレノン	動悸、息切れ、むくみの緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・左記症状は、安全性の観点から慎重に考えるべきか ・一方で、当該成分は、エネルギー産生を高め、血流を良くするものであり、健康増進目的でも使用されうる ・類似の効能を謳う健康食品（コエンザイムQ10）もある
ビタミン主薬製剤	メコバラミン	筋肉痛・関節痛、神経痛、手足のしびれ、眼精疲労	<ul style="list-style-type: none"> ・他のビタミン成分と一緒に配合されていることが多く、栄養補給等の目的でも使用されうる
カルシウム主薬製剤	L-アスパラギン酸カルシウム	低カルシウム血症、カルシウム補充	<ul style="list-style-type: none"> ・効能効果にカルシウム補充目的を含んでおり、健康増進目的でも使用されうる
歯科用材（う蝕予防）	フッ化ナトリウム	う蝕予防	<ul style="list-style-type: none"> ・効能効果がう蝕予防であり、当該薬剤のみでは特定の保険給付を代替しないと考えられる

対象から除外するものの経過措置期間（案）

- 現行の税制対象商品には、パッケージ上及びレシート上に税制対象マークが印字されており、確定申告に際して、消費者が対象商品を判別できるようになっている。
- 改正税法は令和4年1月1日から施行されるところ、対象商品の追加及び削除について、施行日より対応する必要がある。



メーカー・小売り店における具体的な対応例

【メーカー】パッケージデザインの切り替え（マークの追加・削除）

【小売り店】レジシステムの印字設定、店頭ポップ等の切り替え

- 新たな対象商品については、税制対象マークのシール貼り付け、レジでの声かけ等により一定程度、消費者に認知してもらうことが可能。
- 一方、今般対象外とする商品については、これまで対象商品として認知されてきているほか、マーク入りの商品が売り切れるまでは、対象商品として申告される可能性がある。確定申告において、対象商品でないにもかかわらず誤って申告された場合は、修正申告を行う必要が生じてしまう。
- このため、今般対象外とする商品については、消費者への認知、商品入れ替えに要する期間（※）、卸の流通在庫期間に鑑みて、**税制の対象から除外するまでに4年間の経過措置を設けることとしてはどうか。**

（※）OTC医薬品の品質保証期間は3年程度であり、施行前に出荷されたマーク入り商品は、当該期間中は市場に残っている可能性がある。

対象に追加するものについて（論点）

○国民生活基礎調査（令和元年）によると、**有訴者数が特に多い症状（上位3症状群）**としては、**肩こり・腰痛・関節痛、咳痰、鼻づまり・鼻汁**。【P19参照】

○**現時点で明らかな潜在的医療費削減額等（※）も考慮すると、税制対象範囲の拡大による医療費適正化の効果が著しく高いと考えられる症状としては、下表の4症状が考えられるのではないか。**

※OTCの置き換えによる医療費適正化効果の大きい症状（額の大きい順）：鼻炎、風邪症候群、胸やけ・胃痛・もたれむかつき、便秘、腰痛、肩痛、頭痛【P27参照】

※症状へのOTCでの対処状況【P20～22】、世代間のOTCへのニーズの違い【P23～26】なども考慮。

○拡充対象を考える際には、**安全性の観点を重視**し、重症化や急変の可能性が高いもの、症状の中に様々な疾患が隠れているようなものは慎重に扱うべき。

○以上を踏まえ、**拡充対象の症状としては、どのようなものが適切と考えるか。**

なお、拡充する際には、**消費者にとってのわかりやすさの観点から、症状群単位で1つの群と捉えた上で、スイッチOTC以外の成分を洗い出し、各症状の改善に有用と考えられるものを税制の対象に加えてはどうか。**

症状群	対応する主な薬効群	対応する有効成分の例（非スイッチ）	（参考）対応する主な疾患名
腰痛、関節痛、肩こり	鎮痛・鎮痒・収斂・消炎剤	サリチル酸グリコール（鎮痛消炎成分）	背部痛
風邪の諸症状 （熱・頭痛、咳や痰が出る、喉の痛み等）	解熱鎮痛剤、総合感冒剤、鎮咳剤、去痰剤、鎮咳去痰剤	アセトアミノフェン（解熱鎮痛成分）、コデインリン酸水和物（鎮咳成分）	急性鼻咽頭炎、急性咽頭炎
アレルギーの諸症状 （鼻づまり・鼻汁、くしゃみ、かゆみ等）	耳鼻科用剤、抗ヒスタミン剤、その他アレルギー用薬	ジフェンヒドラミン塩酸塩（抗ヒスタミン成分）	アレルギー性鼻炎
胃腸の諸症状 （胸やけ、胃痛、もたれむかつき、便秘等）	鎮痙剤、止瀉剤・整腸剤、消化性潰瘍用剤、健胃消化剤、下剤・浣腸剤、複合胃腸剤	酸化マグネシウム（制酸・下剤成分）	胃食道逆流症、胃炎及び十二指腸炎、便秘、過敏性腸症候群

今後の検討事項について

今後の検討事項について

検討項目（大綱の抜粋）

論点

少子高齢化社会の中では限りある医療資源を有効活用するとともに、国民の健康づくりを促進することが重要であり、**国民が適切な健康管理の下、セルフメディケーション（自主服薬）に取り組む環境を整備**することが、医療費の適正化にも資する。

こうした観点から、セルフメディケーション税制について、対象をより効果的なものに重点化した上で、5年の延長を行う。具体的には、いわゆるスイッチOTC成分の中でも効果の薄いものは対象外とする一方で、とりわけ効果があると考えられる薬効（3薬効程度）については、スイッチOTC成分以外の成分にも対象を拡充し、その具体的な内容等については専門的な知見も活用し決定する。

あわせて、手続きの簡素化を図るとともに、**本制度の効果検証を行うため、適切な指標を設定した上で評価を行い、次の適用期限の到来時にその評価を踏まえて制度の見直し等を含め、必要な措置を講ずる。**

論点1 セルフメディケーション税制の効果検証

○効果検証を行う前提として、「税制による医療費適正化効果」をどのように定義するか。

○また、効果検証の指標及び検証の方法はどのようなものが適当と考えるか。

論点2 税制以外の施策の在り方

○国民にセルフケアを前提としたセルフメディケーションの適切な実施を促すための政策手段としては、税制以外に、どのような施策が特に有効と考えるか。

○また、各ステークホルダーの連携や関わり方等をどのように考えるか。

令和3年度予算案 関係施策概要

1 | OTC薬の適切な使用の促進

【令和3年度予算案】

- ◆ **スイッチOTCの推進 0.4億円 (0.1億円)**
 - ・「医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」の運営等に必要経費
 - ・諸外国における医薬品に関する承認制度、販売制度及びスイッチOTC化を取り巻く環境等の調査に必要な経費
 - ・一般用医薬品等の販売状況の調査に必要な経費

2 | 症状の自覚、症状や状況に応じた適切な行動の促進

【その他】

- ◆ **健康サポート薬局の普及促進**

かかりつけ薬剤師・薬局の基本的な機能を有し、地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する薬局の普及を促進する。

【令和3年度予算案】

- ◆ **医療のかかり方普及促進事業 2.2億円 (2.1億円)**

上手な医療のかかり方についてウェブサイト等を通じて国民への周知・啓発及び理解を促すとともに、医療関係者、企業、行政等関係者が一体となって国民運動を広く展開するためのイベントの開催等を行う。

3 | 健康に関する関心・正しい理解、予防・健康づくりの促進

【令和3年度予算案】

- ◆ **保険者のインセンティブ強化（国保・保険者努力支援制度）1,412億円 (1,412億円)**

公的保険制度における疾病予防の取組を強化するため、保険者努力支援制度（国民健康保険）について、引き続き、配点のメリハリを強化するなどの適切な指標の見直しにより、予防・健康づくり等に関する取組を強力に推進する。

- ◆ **保険者の予防・健康インセンティブの取組への支援**
令和2年度3次補正65百万円 令和3年度当初77百万円 (1.2億円)

健康長寿社会の実現や医療費の適正化を図るため、経済団体、保険者、自治体、医療関係団体等で構成される「日本健康会議」における、先進的な予防・健康づくりのインセンティブを推進する者を増やす支援を行う。

- ◆ **健康日本21推進費 1.7億円 (1.7億円)**

「スマート・ライフ・プロジェクト」等を通じて、国民の健康や運動への関心を高める啓発活動を行う

- ◆ **PHRの活用促進 補正21億円、当初0.8億円 (9億円)**

健(検)診結果等情報の利活用のためマイナンバー情報連携に係るシステム改修事業およびPHR検討会経費等

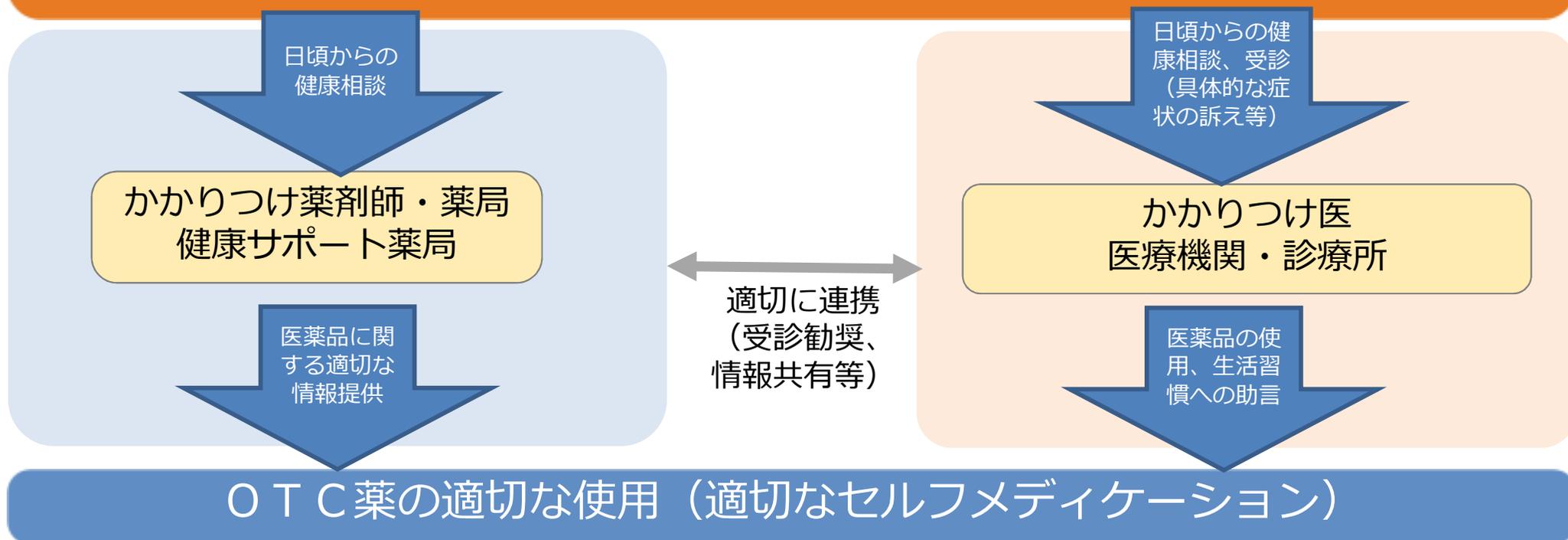
※赤字予算案の計数は調整中のため変わり得る。赤字カッコ内は令和2年度予算額。

セルフケアの推進及び適切なセルフメディケーションの実施に向けた課題

- セルフメディケーションを適切に進める前提として、①セルフケアの推進（健康に関する関心・正しい理解、予防・健康づくりの推進等）、② OTC薬の適切な選択・使用に関する助言を含む国民からの相談体制の構築（かかりつけ医、健康サポート薬局やかかりつけ薬剤師・薬局の普及促進等）、③メーカーによるOTC医薬品の分かりやすい情報提供が重要。
- その上で、医療従事者及びその他の関係者間の連携の在り方の整理、OTC薬の選択肢の幅を広げるためのスイッチOTCの推進、国民へのインセンティブとしてのセルフメディケーション税制の普及などを考えていく必要。
- 厚生労働省において、セルフケアの推進及びセルフメディケーションの適切な実施に向けた部局横断的な体制を検討する。

健康に関する関心・正しい理解、予防・健康づくり（セルフケア）

症状の自覚、症状や状況に応じた適切な行動



參考資料

除外及び拡充の議論対象として考えられる薬効

薬効番号	薬効分類名	対応する主な症状	OTC 医薬品	うちスイッチ OTC医薬品	うち非スイッチ OTC医薬品
			9,904品目	1,830品目	8,074品目
264	鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	肩こり、腰痛、筋肉痛などの神経痛等	1,235	531	704
118	総合感冒剤	かぜの諸症状	606	125	481
114	解熱鎮痛消炎剤	発熱、痛み	364	92	272
224	鎮咳去たん剤	咳、たん、喘息	244	31	213
132	耳鼻科用剤	蓄膿症、アレルギー性鼻炎	209	53	156
441	抗ヒスタミン剤	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状	39	12	27
222	鎮咳剤	咳	31	1	30
449	その他のアレルギー用薬	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状等	24	20	4
131	眼科用剤	疲れ目、かゆみ、結膜充血、眼瞼炎	444	31	413
317	混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）	眼精疲労、肩こり	351	5	346
265	寄生性皮膚疾患用剤	水虫、たむし	277	189	88
235	下剤、浣腸剤	便秘	241	4	237
237	複合胃腸剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振	197	6	191
279	その他の歯科口腔用薬	口内炎	156	9	147
233	健胃消化剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振	145	6	139
231	止しゃ剤、整腸剤	下痢	118	18	100
211	強心剤	動悸、息切れ、心臓病	116	0	116
313	ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）	肩こり、腰痛、手足のしびれ	102	6	96
312	ビタミンB1剤	ビタミンB1の欠乏	98	2	96
269	その他の外皮用薬	にきび	56	2	54
226	含嗽剤	口腔内・喉の殺菌、虫歯	49	1	48
234	制酸剤	胸やけ、むかつき、胃部不快感	45	6	39
319	その他のビタミン剤	腰痛、神経痛、しびれ	37	2	35
263	化膿性疾患用剤	細菌による皮膚感染症	36	4	32
232	消化性潰瘍用剤	胃痛、胃もたれ、胸やけ、むかつき等	18	14	4
239	その他の消化器官用薬	胃もたれ、吐き気、食欲不振等	17	8	9
218	高脂血症用剤	高コレステロール	14	8	6
799	他に分類されない治療を主目的としない医薬品	禁煙時のいらつき	11	9	2
625	抗ウイルス剤	口唇ヘルペス	9	8	1
124	鎮けい剤	胃痛、腹痛、胃痙攣	4	3	1
223	去たん剤	たん、たんの絡む咳	4	4	0
252	生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）	膣カンジダ	4	4	0
259	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	女性の頻尿、残尿感	3	1	2
617	主としてカビに作用する抗生物質製剤	真菌性皮膚炎	1	1	0
	上記以外（スイッチOTCが存在しない薬効）		3,985	0	3,985

（出典）令和2年7月薬事工業生産動態統計調査

※スイッチOTC医薬品の品目数については厚生労働省が届出を受理した1,830品目としているため、各薬効分類の品目数の総計とは合致しない。

スイッチOTCと非スイッチOTCの年間出荷額

薬効番号	薬効分類名	対応する主な症状	2019年		
			OTC 医薬品の出荷金額 820,404,308	うちスイッチ OTC医薬品 163,933,404	うち非スイッチ OTC医薬品 656,470,904
264	鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	肩こり、腰痛、筋肉痛などの神経痛等	103,043,468	34,770,710	68,272,758
118	総合感冒剤	かぜの諸症状	84,135,660	38,448,130	45,687,530
114	解熱鎮痛消炎剤	発熱、痛み	56,293,610	37,386,329	18,907,281
224	鎮咳去たん剤	咳、たん、喘息	19,265,982	1,651,730	17,614,252
132	耳鼻科用剤	蓄膿症、アレルギー性鼻炎	21,593,523	4,440,716	17,152,807
441	抗ヒスタミン剤	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状	1,684,280	477,019	1,207,261
222	鎮咳剤	咳	2,059,133	0	2,059,133
449	その他のアレルギー用薬	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状等	11,112,773	11,096,252	16,521
131	眼科用剤	疲れ目、かゆみ、結膜充血、眼瞼炎	72,855,618	3,941,040	68,914,578
317	混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）	眼精疲労、肩こり	42,725,485	3,327,033	39,398,452
265	寄生性皮膚疾患用剤	水虫、たむし	10,483,288	9,461,229	1,022,059
235	下剤、浣腸剤	便秘	23,890,901	94,087	23,796,814
237	複合胃腸剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振	29,801,321	956,641	28,844,680
279	その他の歯科口腔用薬	口内炎	12,317,893	595,437	11,722,456
233	健胃消化剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振	5,879,005	1,218,730	4,660,275
231	止しゃ剤、整腸剤	下痢	10,273,086	456,809	9,816,277
211	強心剤	動悸、息切れ、心臓病	10,624,875	55,216	10,569,659
313	ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）	肩こり、腰痛、手足のしびれ	13,617,811	103,094	13,514,717
312	ビタミンB1剤	ビタミンB1の欠乏	5,237,499	1,534,642	3,702,857
269	その他の外皮用薬	にきび	3,118,909	669,910	2,448,999
226	含嗽剤	口腔内・喉の殺菌、虫歯	2,652,681	0	2,652,681
234	制酸剤	胸やけ、むかつき、胃部不快感	3,833,016	2,327,728	1,505,288
319	その他のビタミン剤	腰痛、神経痛、しびれ	10,176,253	758,188	9,418,065
263	化膿性疾患用剤	細菌による皮膚感染症	11,479,360	4,668,088	6,811,272
232	消化性潰瘍用剤	胃痛、胃もたれ、胸やけ、むかつき等	669,137	597,834	71,303
239	その他の消化器官用薬	胃もたれ、吐き気、食欲不振等	244,378	166,368	78,010
218	高脂血症用剤	高コレステロール	954,695	168,750	785,945
799	他に分類されない治療を主目的としない医薬品	禁煙時のいらつき	3,779,914	3,582,736	197,178
625	抗ウイルス剤	口唇ヘルペス	425,903	425,903	0
124	鎮けい剤	胃痛、腹痛、胃痙攣	356,475	355,607	868
223	去たん剤	たん、たんの絡む咳	48,601	48,601	0
252	生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）	膣カンジダ	66,616	66,616	0
259	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	女性の頻尿、残尿感	342,704	82,231	260,473
617	主としてカビに作用する抗生物質製剤	真菌性皮膚炎	0	0	0
	上記以外（スイッチOTCが存在しない薬効）		245,360,455	0	245,360,455

出所：薬事工業生産動態統計調査（2019年） 出荷金額が0となっているものは、2019年において、メーカーからの出荷実績が報告されていないもの

スイッチOTC成分（1／3）

承認年	成分名	用法	OTC薬効群
1983	ソイステロール(大豆油不けん化物)	経口	血清高コレステロール改善薬
	ピコスルファートナトリウム	経口	瀉下薬（便秘薬）
1985	エキサラミド	外用	水虫・たむし用薬
	ジメモルファンリン酸塩	経口	鎮咳去たん薬
	インドメタシン	外用	外用鎮痛消炎薬
	イブプロフェン（450mg／日）	経口	解熱鎮痛薬
1986	ポリエチレンホスファチジルコリン	経口	血清高コレステロール改善薬
	ポリエチレンスルホン酸ナトリウム	外用	鎮痛消炎薬
1987	ブチルスコポラミン臭化物	経口	胃腸鎮痛鎮痙薬
	ブロムヘキシシン塩酸塩	経口	かぜ薬
	セトラキサート塩酸塩	経口	胃腸薬
	チメピジウム臭化物水和物	経口	胃腸鎮痛鎮痙薬
	シクロピロクスオラミン	外用	水虫・たむし用薬
	ミコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	イソチペンジル塩酸塩	口腔	歯痛・歯槽膿漏薬
1988	ゲファルナート	経口	胃腸薬
	エコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	カルボシステイン	経口	鎮咳去たん薬
1989	ヘプロニカート	経口	血行障害改善薬
	ロペラミド塩酸塩	経口	止しゃ薬
1990	ユビデカレノン	経口	強心薬
	ヒドロコルチゾン酪酸エステル	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬
	メキタジン	経口	内服アレルギー用薬
	ビソキサチン酢酸エステル	経口	瀉下薬（便秘薬）
1991	イブプロフェンピコノール	外用	にきび治療薬
	トルシクラート	外用	水虫・たむし用薬
	ウフェナマート	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬
	エブラジノン塩酸塩	経口	鎮咳去たん薬
1992	チオコナゾール	外用	水虫・たむし用薬
	メコバラミン	経口	ビタミン主薬製剤
	プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬
	L-アスパラギン酸カルシウム	経口	カルシウム主薬製剤
1993	イブプロフェン	経口	かぜ薬 ※新効能医薬品
	スルコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	ビホナゾール	外用	水虫・たむし用薬
	メキタジン	経口	かぜ薬 ※新効能医薬品
1994	オキシコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	ピロキシカム	外用	外用鎮痛消炎薬
1995	ケトプロフェン	外用	外用鎮痛消炎薬
	オキセサゼイン	経口	胃腸薬
	トリメブチンマレイン酸塩	経口	胃腸薬
	フェルピナク（0.5%）	外用	外用鎮痛消炎薬
	ピレンゼピン塩酸塩水和物	経口	胃腸薬

スイッチOTC成分（2 / 3）

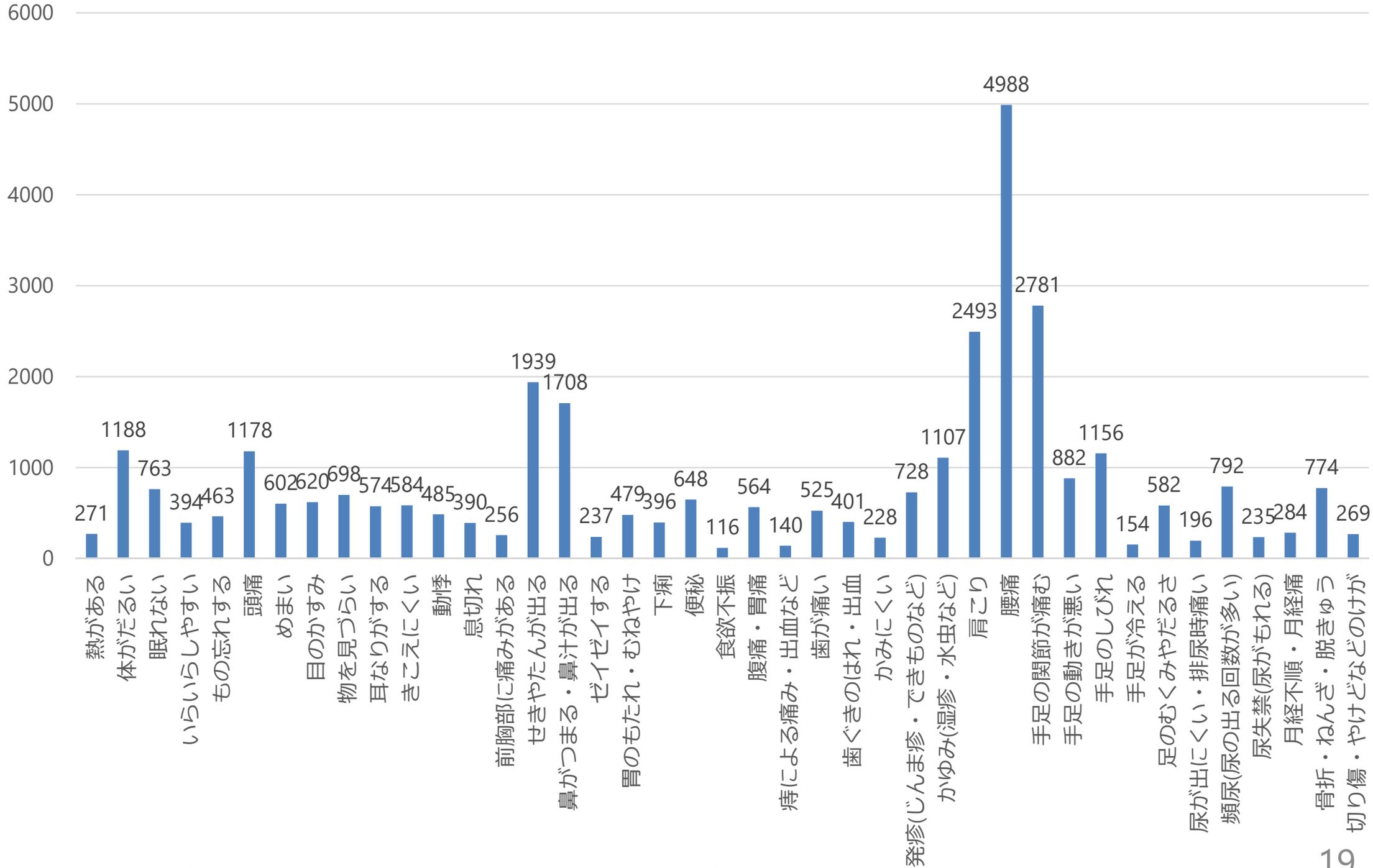
承認年	成分名	用法	OTC薬効群
1997	クロモグリク酸ナトリウム	点眼・点鼻	アレルギー用点眼薬・アレルギー性鼻炎用点鼻薬
	シメチジン	経口	胃腸薬
	ファモチジン	経口	胃腸薬
	ラニチジン塩酸塩	経口	胃腸薬
1998	ソファルコン	経口	胃腸薬
2000	デプレノン	経口	胃腸薬
2001	ニコチン	経口 (ガム)	禁煙補助薬
2002	アモロルフィン塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
2002	ブテナフィン塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	ネチコナゾール塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	テルビナフィン塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	プラノプロフェン	点眼	点眼薬
2005	ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	経口	胃腸薬
	ニザチジン	経口	胃腸薬
	ケトチフェンフマル酸塩	点鼻	アレルギー性鼻炎用点鼻薬
2006	ラノコナゾール	外用	水虫・たむし用薬
	チキジウム臭化物	経口	胃腸鎮痛鎮痙薬
	アゼラスチン塩酸塩	経口	内服アレルギー用薬
	ケトチフェンフマル酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬 ※新投与経路医薬品
	トリアムシノロンアセトニド	外用	口内炎治療薬
	アシクロビル	外用	口唇ヘルペス再発治療薬
2007	ケトチフェンフマル酸塩	点眼	アレルギー用点眼薬 ※新投与経路医薬品
	アンブロキシソール塩酸塩	経口	かぜ薬（去痰成分）
	フェルビナク（3.5%）	外用	外用鎮痛消炎薬 ※新用量医薬品
2008	フラボキサート塩酸塩	経口	頻尿・残尿感改善薬
	イソコナゾール硝酸塩	腔坐剤	腔かゞゞ再発治療薬
	ニコチン	貼布	禁煙補助薬 ※新投与経路医薬品
	エメダスチンフマル酸塩	経口	内服アレルギー用薬
	ミコナゾール硝酸塩	腔坐剤	腔かゞゞ再発治療薬 ※新投与経路医薬品
2009	ミコナゾール硝酸塩	外用	腔かゞゞ再発治療薬 ※新効能医薬品
	イソコナゾール硝酸塩	外用	腔かゞゞ再発治療薬 ※新効能医薬品
	ジクロフェナクナトリウム	外用	外用鎮痛消炎薬
	ビダラビン	外用	口唇ヘルペス再発治療薬

スイッチOTC成分（3／3）

承認年	成分名	用法	OTC薬効群
2010	ロキソプロフェンナトリウム水和物	経口	解熱鎮痛薬
	エピナスチン塩酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	トロキシピド	経口	胃腸薬（粘膜修復）
	オキシコナゾール硝酸塩	腔坐剤	腔かぶた再発治療薬 ※新投与経路医薬品
	ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	点鼻	アレルギー性鼻炎用点鼻薬
2011	クロトリマゾール	腔坐剤	腔かぶた再発治療薬 ※新投与経路医薬品
	オキシメタゾリン塩酸塩	点鼻	鼻炎用点鼻薬
	アシタザノラスト水和物	点眼	アレルギー用点眼薬
	ペミロラストカリウム	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	メキタジン	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
2012	フェキソフェナジン塩酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	ネチコナゾール塩酸塩	外用	腔かぶた再発治療薬 ※新投与経路医薬品
	イコサペント酸エチル	経口	境界領域の中性脂肪値改善薬
	セチリジン塩酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	イブプロフェン（600mg／日）	経口	解熱鎮痛薬 ※新用量医薬品
2013	トリメブチンマレイン酸塩	経口	過敏性腸症候群再発症状改善薬 ※新効能医薬品
	ペミロラストカリウム	点眼	アレルギー用点眼薬 ※新投与経路医薬品
	トラニラスト	点眼	アレルギー用点眼薬
	エバスチン	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
2014	アルミノプロフェン	経口	解熱鎮痛薬
2015	フッ化ナトリウム	外用	歯科用剤（う蝕予防）
	ロキソプロフェンナトリウム水和物	外用	消炎鎮痛薬 ※新投与経路医薬品
2017	ロラタジン	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	ベポタスチンベシル酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	フェキソフェナジン塩酸塩（小児用）	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬
	クロトリマゾール	外用	腔かぶた再発治療薬 ※新効能医薬品
2018	フルニソリド	点鼻	鼻炎用点鼻薬
2019	フルチカゾンプロピオン酸エステル	点鼻	鼻炎用点鼻薬
	イソコナゾール硝酸塩	腔坐剤	腔かぶた再発治療薬 ※新用法医薬品
2020	精製ヒアルロン酸ナトリウム	点眼	点眼薬
	ベタメタゾン吉草酸エステル	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬

国民が日常的に抱える症状

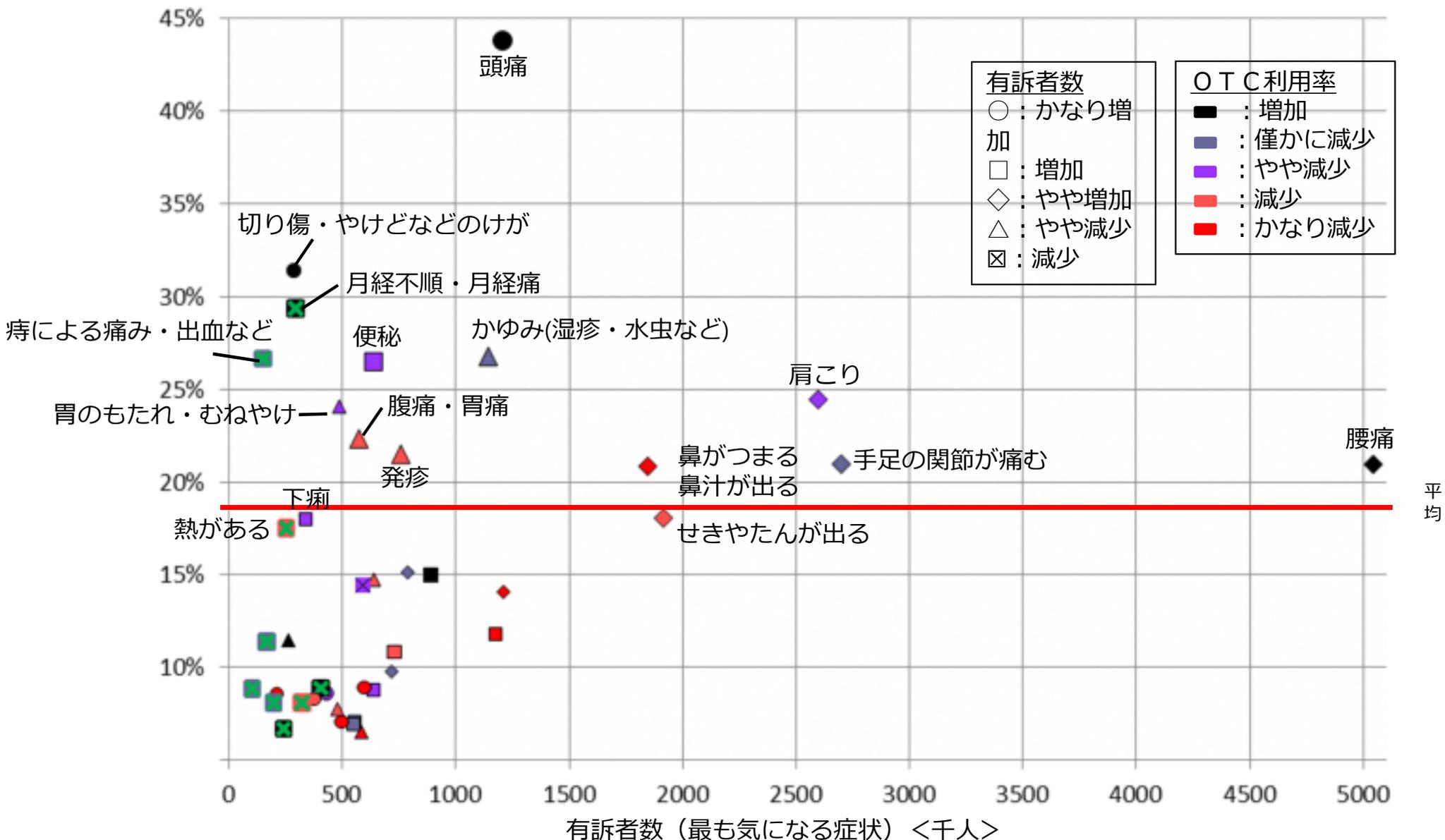
(千人)



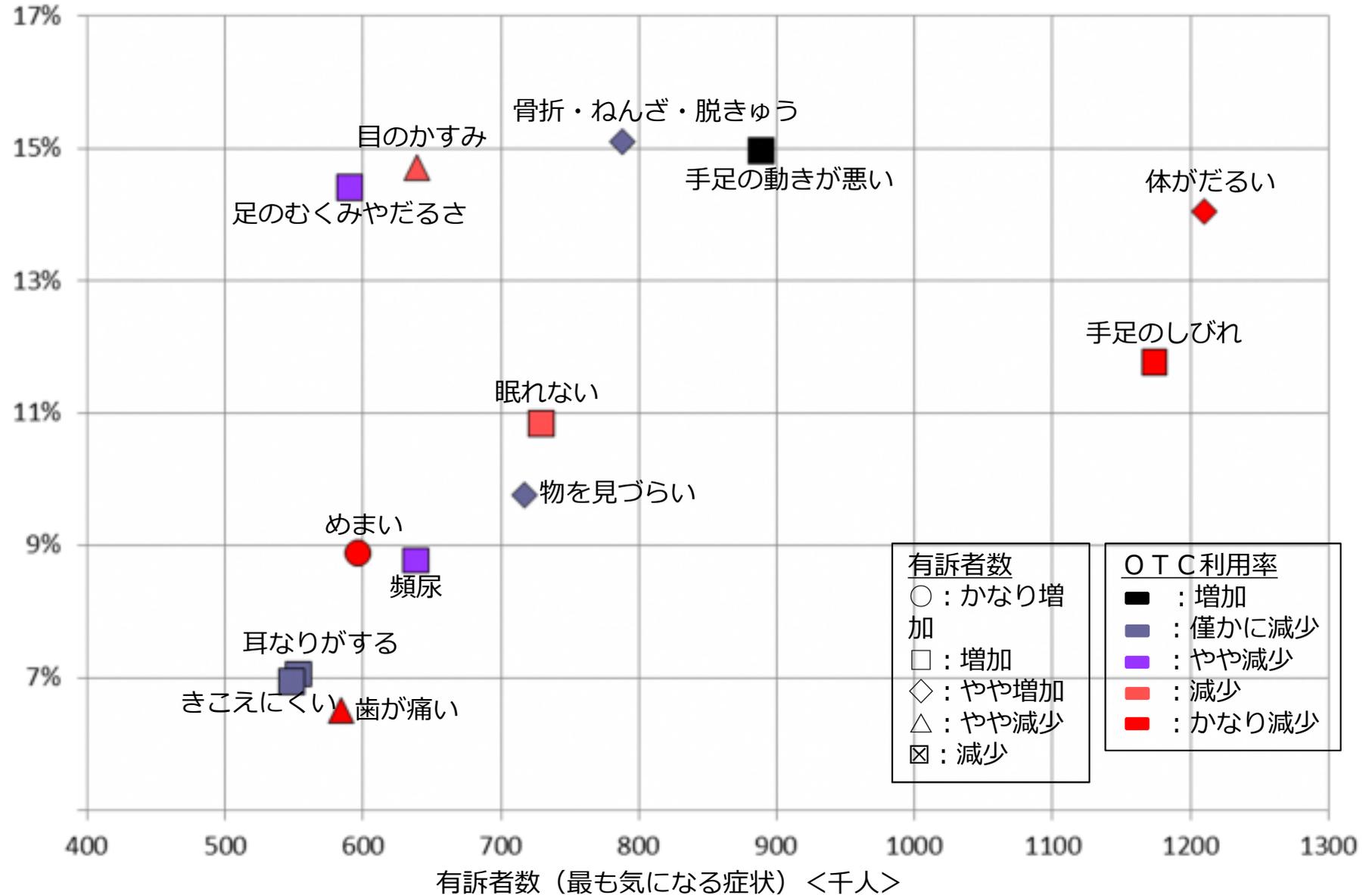
出所: 令和元年「国民生活基礎調査」(公表データ) 有訴者数、最も気になる症状 N=37,471千人

有訴者数，最も気になる症状（単回答）のOTCによる治療状況

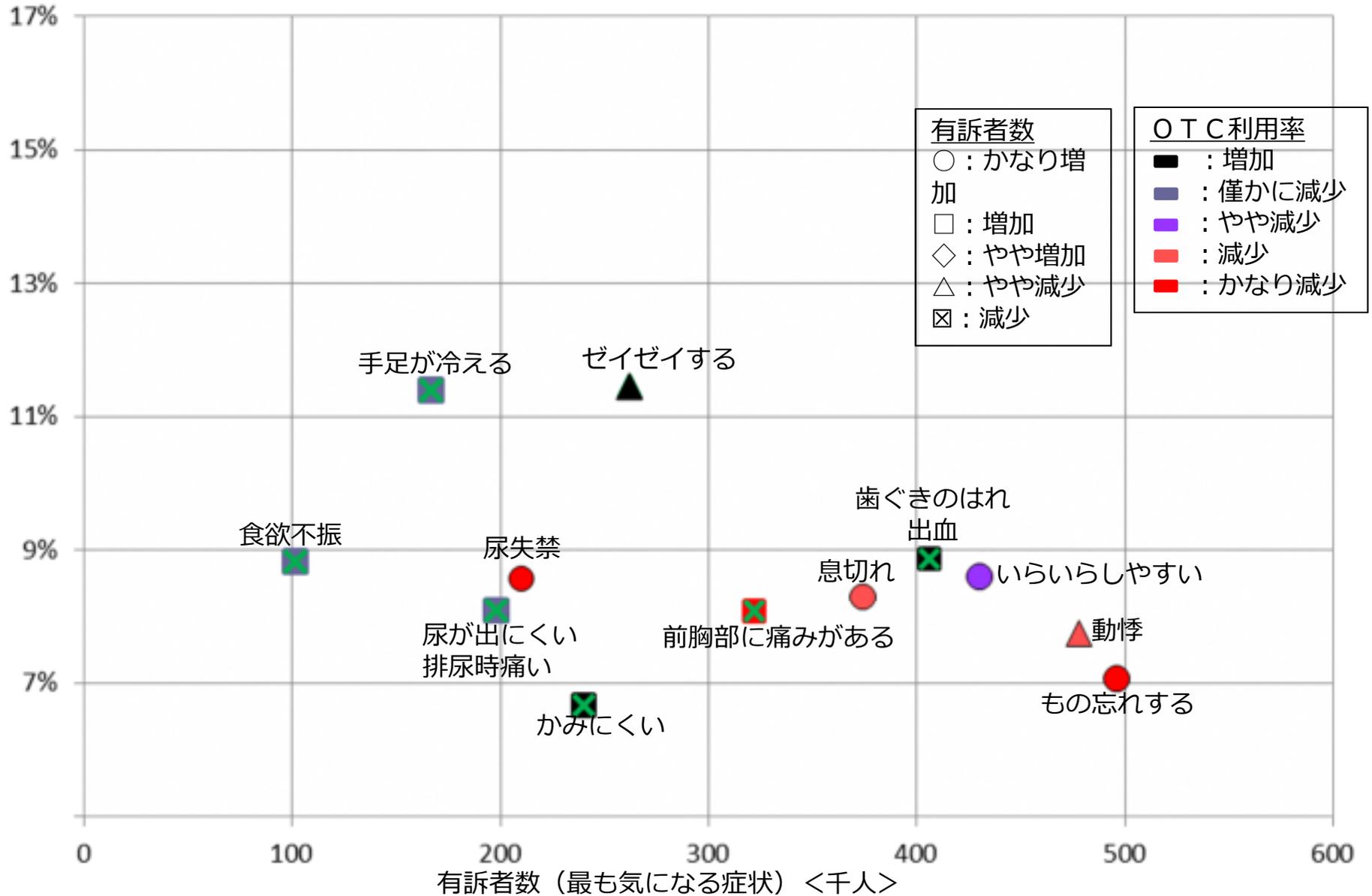
OTCで対応した比率



OTCで対応した比率



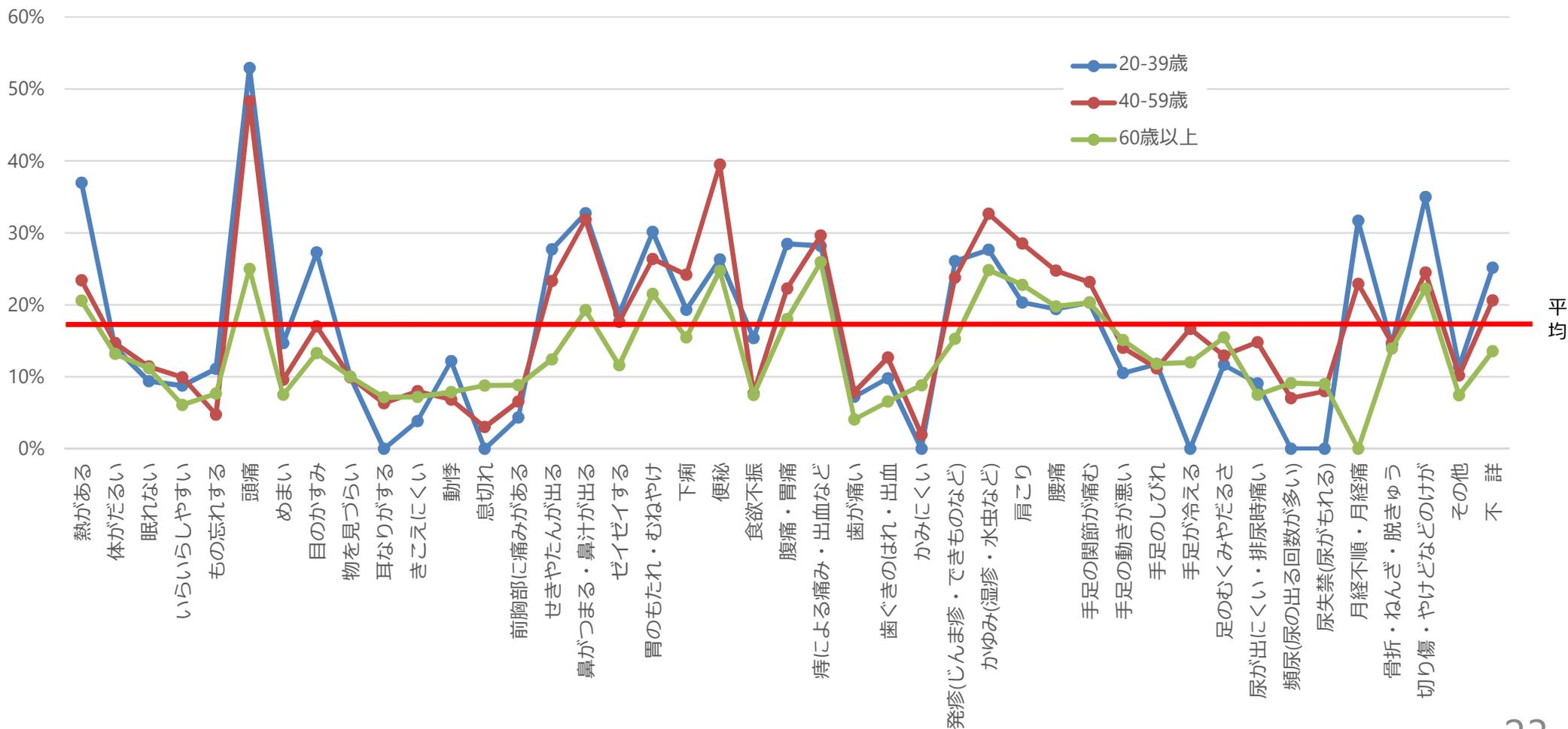
OTCで対応した比率



各主症状に対する国民の対応状況（年齢別）【1/2】

- 半数以上の症状において、60歳以上の「売薬を飲んでいる」と回答した割合が他の年齢層と比較して最も低くなっている

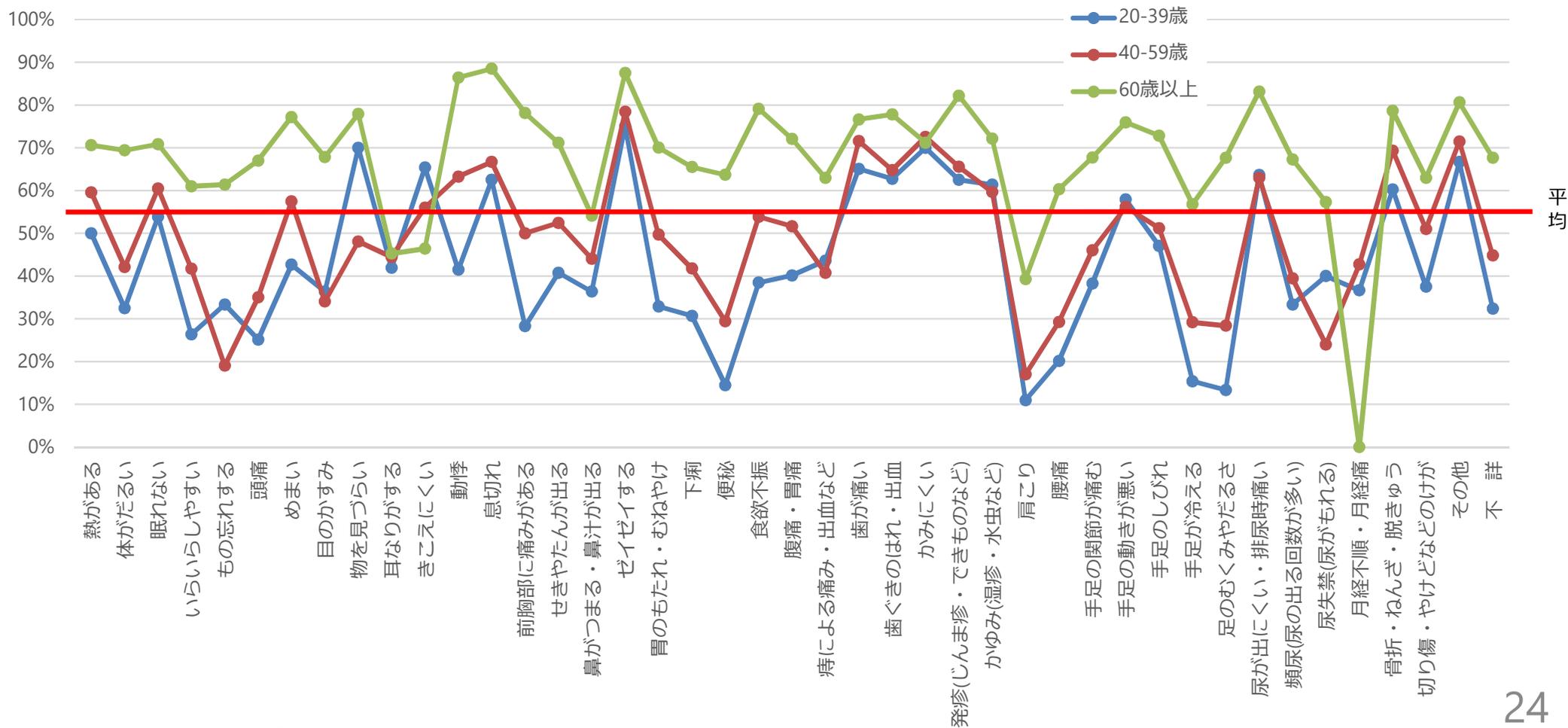
各主症状に対して「売薬を飲んでいる」と回答した割合



各主症状に対する国民の対応状況（年齢別）【2/2】

- ほとんど症状において年齢層が上がるにつれて「病院・診療所に通っている」と回答した割合が増加している

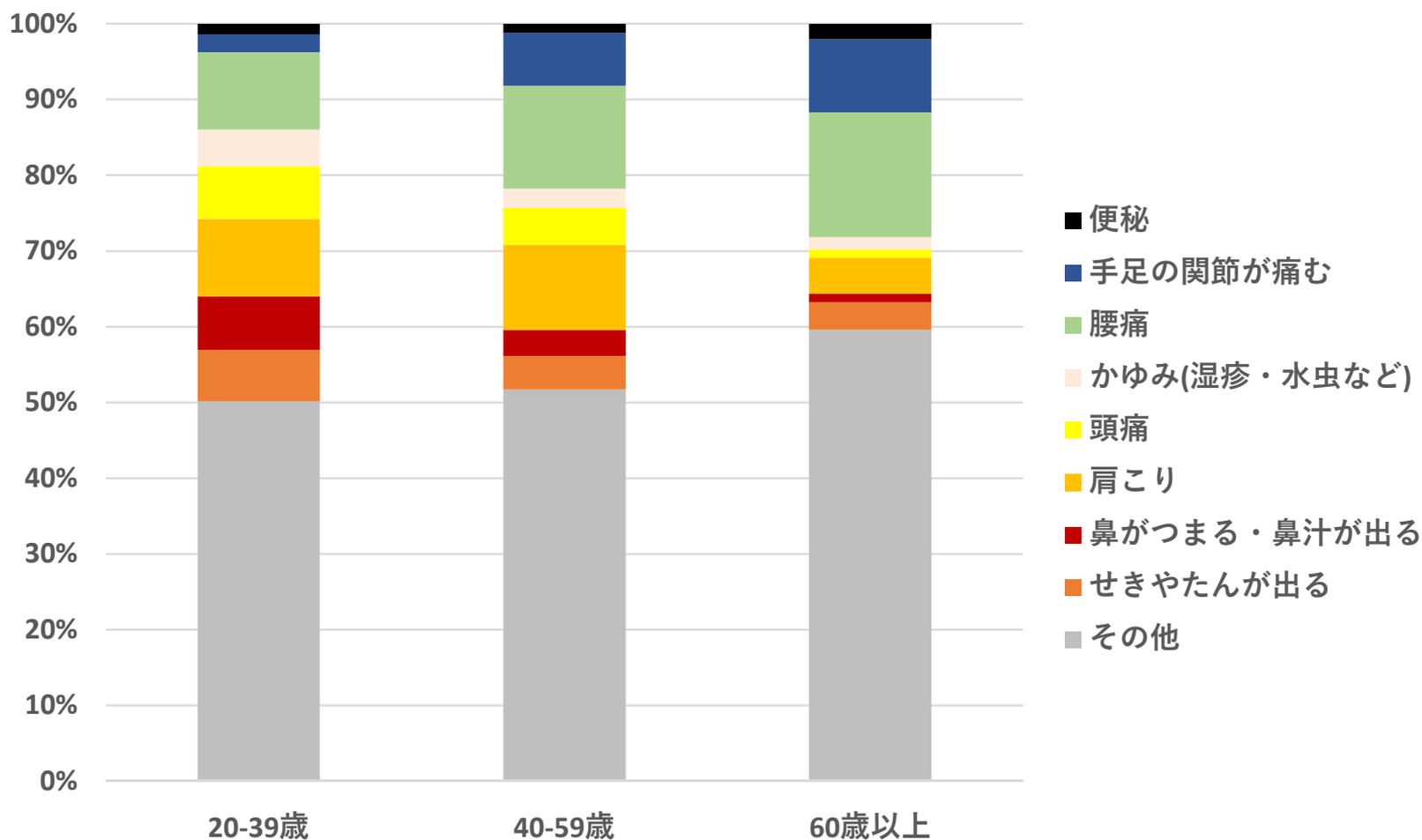
各主症状に対して「病院・診療所に通っている」と回答した割合



各年代が抱える各主症状の分布

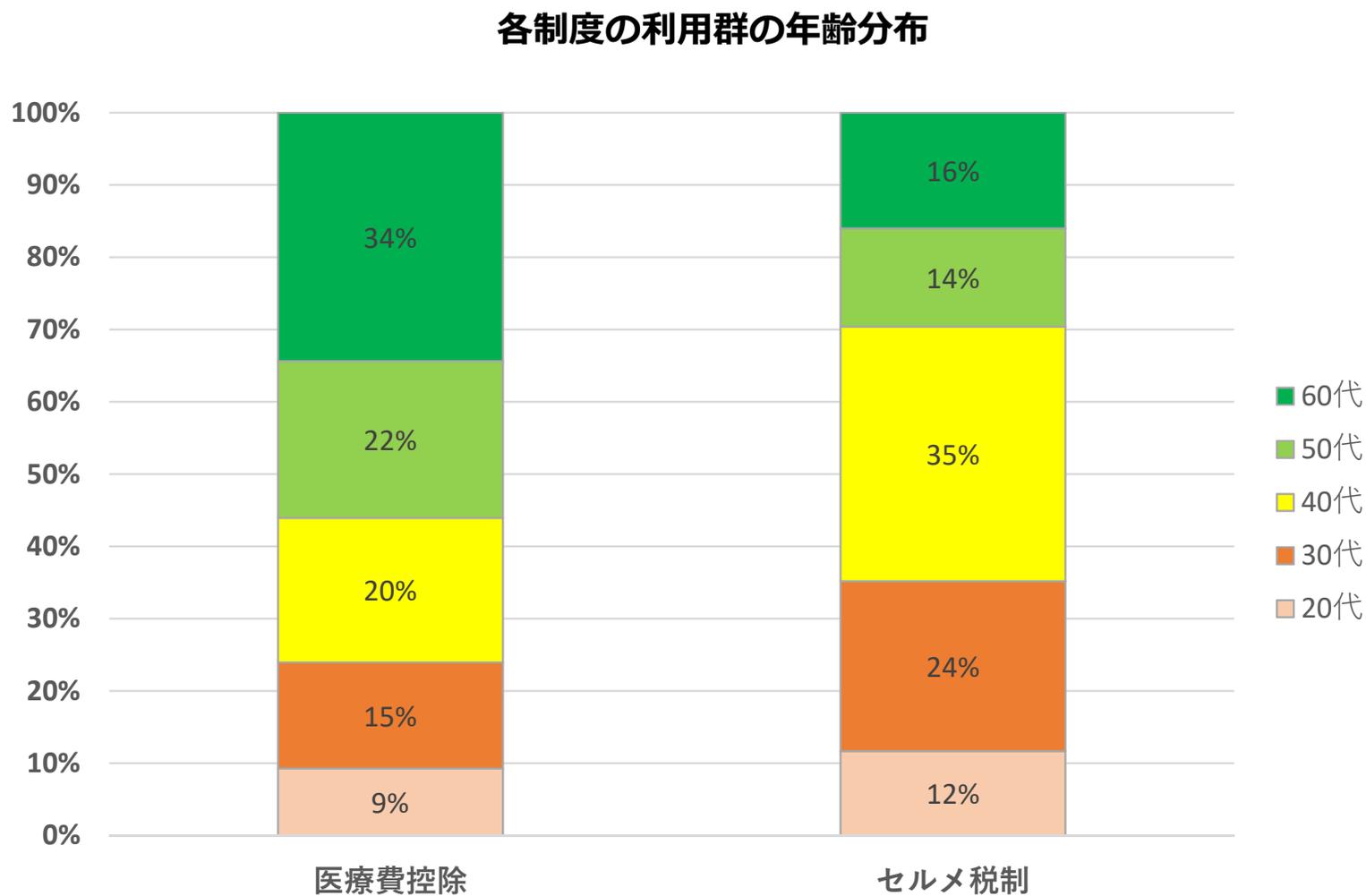
- 「手足の関節が痛む」「腰痛」の回答の割合は60歳以上において最も大きくなっている
- 一方で「かゆみ（湿疹・水虫）」「頭痛」「肩こり」「鼻がつまる・鼻汁が出る」「せきやたんが出る」の回答の割合は若い世代ほど大きくなっている

各主症状の回答数の分布



各制度の利用群の年齢分布

- 医療費控除の利用群のボリュームゾーンが50代～60代に対して、セルメ税制のボリュームゾーンは30代～40代となっている



OTCへの置き換えによる医療費削減効果は？ (結果の概要)

既存領域			
疾患	人数 (A,万人)	医療費 (B, 円)	総額 (億円)
かぜ症候群	560.0	7,200	403.2
頭痛	126.7	5,300	67.2
腰痛・肩痛	92.0	8,830	81.3
便秘	234.5	5,749	134.8
胸やけなど	287.8	7,457	214.6
鼻炎	1668.7	8,561	1,428.7
合計			2,329.7

第1回検討会 五十嵐参考人提出資料（抜粋）

	レセ 件数	全項目			初再診+医学管理等+投薬+調剤+薬剤			平均日数 平均枚数	OTCトップ100		OTC金額 (円)
		金額(円)	金額/件	3割負担	金額(円)	金額/件	3割負担		薬効	金額/日	
かぜ (全薬剤)	5,379	33,152,340	6,163	1,849	30,199,740	5,614	1,684	4.889	かぜ薬	173.570	849
鼻炎① (全薬剤)	77,598	667,322,650	8,600	2,580	572,286,677	7,375	2,213	28.200	抗ア薬	140.465	3,961
鼻炎② (抗ア薬)	37,709	292,673,860	7,761	2,328	250,699,601	6,648	1,994	28.686	抗ア薬	140.465	4,029
便秘 (全薬剤)	4,134	24,054,390	5,819	1,746	21,592,212	5,223	1,567	32.168	便秘薬	27.390	881
胃炎 (全薬剤)	635	3,648,900	5,746	1,724	3,092,507	4,870	1,461	7.062	胃腸薬	75.208	531
胸やけ (全薬剤)	1,402	11,153,680	7,956	2,387	9,031,581	6,442	1,933	29.344	胃腸薬	75.208	2,207
頭痛 (全薬剤)	1,495	7,576,520	5,068	1,520	6,138,331	4,106	1,232	6.153	解熱鎮痛	107.422	661
腰痛① (消炎鎮痛)	118	661,040	5,602	1,681	495,376	4,198	1,259	9.933	解熱鎮痛	107.422	1,067
腰痛② (外用消炎)	593	4,319,520	7,284	2,185	2,633,273	4,441	1,332	81.430	外用消炎 金額/枚	15.612	1,271
腰痛③ (②+③)	833	6,069,780	7,287	2,186	3,859,760	4,634	1,390	10.110	解熱鎮痛	107.422	1,998
								58.396	外用消炎	15.612	
腰痛④ (全薬剤)	2,412	18,810,190	7,799	2,340	11,599,807	4,809	1,443	11.833	解熱鎮痛	107.422	1,588
								20.316	外用消炎	15.612	